赤川先生の思い出

M⑥　安田匡臣

私と先生の思い出は、学生時代は勿論、田熊汽罐製造株式会社（現株式会社タクマ）に入社した直後の昭和 33 年ごろから特別な関係が始まりました。

当時、ボイラ業界は石炭焚きから重油に移りつつありました。しかし、当時は「重油ボイラ規制法」があり、簡単には重油の使用は認められませんでした。

一方では、欧米では発電効率の良い超大型、高圧、高温のモノチューブボイラが実用化されていました。そこで我が国のボイラメイカーは一斉に海外技術の導入をはかった時代です。当社では私の所属した課が担当して、技術導入、および研究をしていました、その頃当社では赤川先生にご指導を仰ぐことになり、私が所属していた課で勉強会を行っていました。勉強会の内容は欧米技術報文の講読、その他質疑が中心であったと思います。

その際、先生の送り迎えが私の担当で、当時工場のあった荒井駅（山陽電鉄、高砂市）にお迎えに上がり、勉強会の終了後は荒井駅までお送りし、二人で夕食を食べるのが日課でした。当時駅前にはあまり食堂は無く寿司をよく食べたと思います。先生との食事は緊張の連続だったと思いますが、今では懐かしく思っています。この勉強会がいつまで続いたかはさだかでありません。

その後バルブメーカーに納入した高温、高圧時代のバルブテスト用の 350 気圧、650℃、蒸発量 1T のモノチューブボイラ及び中型発電用のモノチューブボイラの完成後に担当課は大阪（本社）に移動し、私は担当が変わりましたが、当時の先輩が「二相流研究会」を当社でお世話させていただきました。

先生からは「赤川浩爾博士論文選集」を送っていただき、恐縮すると同時に大切にしております。

先生のご冥福をお祈りしています。

（ 終 ）

追悼文受付日：平成 28 年（2016 年）3 月 23 日　